○平成３０年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議（兼第２回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議）概要報告

１　会議名

平成３０年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

（兼北海道青少年科学館連絡協議会　第２回館長会議）

２　日時・場所

⑴　日時

平成 30 年 10 月 18 日（木）～19 日（金）

⑵　場所

旭川市国際交流センター（旭川市１条通８丁目　　℡ 0157-23-6742）

３　会議概要

⑴　10 月 18 日（木）

15:00　会議開会

○開催地挨拶　　旭川市教育委員会社会教育部長　大鷹　明　氏

○代表幹事挨拶　札幌市青少年科学館　館長　京谷 篤

（北海道青少年科学館連絡協議会　会長）

○連携協挨拶　　全国科学館連携協議会事務局　冨田　知宏　氏

○報告事項　　・平成 30 年度上半期（４～８月）運営状況報告

・全国科学館連携協議会理事会・総会について（道科協会長より説明）

・北海道博物館協会役員会について（道科協副会長より説明）

・その他

○協議事項　　・全国科学館連携協議会に対する要望など

○その他

17:10　会議閉会

⑶　会議概要

出席状況：連携協加盟 16 館中 12 館（別紙参加者名簿のとおり）の出席であった。

〈開催地挨拶趣旨〉

旭川市の大鷹社会教育部長から歓迎の挨拶がある。

- 本日は、大変お忙しい中、全道各地の科学館からお集まりいただき誠にありがとうございます。
- 去る９月６の北海道胆振東部地震により、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対しお見舞い申し上げます。また、その時のブラックアウトにより、科学館の皆様も厳しい対応をされたことと思います。旭川の科学館も９月６日・７日を休館とし、その後は正常に開館しております。
- 厳しい財政状況の中、皆様はいろんな工夫をしながら、科学館の運営をされていることと思います。
- 最近の子供たちはスマートホンの操作などは巧みですが、理科離れというか、科学に対する興味や関心が失われているとの報道がされておりますが、このような状況の中で、科学館が

科学リテラシーの向上に果たす役割は重要であると認識しているところであります。

- 科学館の活性化のために、活発な意見交換ができればと存じます。

〈北海道ブロック幹事（道科協会長）挨拶趣旨〉

- 9 月 6 日（木）未明に発生いたしました北海道胆振東部地震、最大震度は、震度階級で最も高い震度７が北海道で初めて観測され、厚真町を中心に大きな被害が発生し、多くの方がお亡くなりになったことに対しまして、心から哀悼の意を表したいと思います。
- とりわけ今回は、地震に伴う一斉停電、ブラックアウトにより、日常生活、経済活動全般が大きな影響を受け、皆様の館も、閉館を余儀なくされたといった影響を受けたと館も、多いのではないかとご推察いたします。
- さて、本協議会は、「道内の科学館が情報交換を図りながら、連携を深めることを目的」としておりまして、今日のような会議を年２回、職員研修を１回実施しております。今年の研修会は、既に皆様にご案内しておりますが、国立科学博物館さんの協力のもと、11 月 15 日、16 日に実施することとしております。
- また、本協議会の 2 回目の会議は「全国の科学館の連携協議会の北海道ブロック会議」も兼ねて実施しております。
- 本日は、連携協の事務局を務めております日本科学未来館の冨田さんにも、お忙しい中、東京から参加して頂いておりますので、全国の科学館の動向なども教えていただき、今後の皆さんの事業の参考にして頂きたいと思います。

〈連携協事務局挨拶趣旨〉

- 連携協は、実際に加盟館の役に立つことに力を入れていこうという毛利会長の方針で事業を展開しており、最近では企業の共催をいただき実験教室を行っている。
- 連携協は、実践的な活動に力を入れているので、皆様のお役に立てる様な活動をこれからも続けていきたいと考えておりますので、本日いろいろなお話を聞かせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

〈報告事項〉

議事に入り北海道ブロック幹事（道科協会長）が議事進行を行う。

① 平成 30 年度上半期（4～8 月）運営状況報告（資料省略）

各館が提出した資料（別添）の中で運営状況について説明があった。その要旨は下記のとおり。

- 科学館協議会から、科学館に来ないのであれば学校に出向いてやるべきとの意見があり、今年からアウトリーチ事業を行うこととしたが、学校としても 1 年間の事業が決まっており、今は需要が少ないが、ぼちぼち学校に出向き先生に代わり授業をしている。これからすこしずつ増やしていきたい（旭川市）。
- プラネタリウムの需要拡大のために、４月から「大人のための星空散歩」という番組をスタートさせた。毎月第４土曜日の 16 時からの投映時間帯に通常番組を変更し実施し、翌月の

星空の魅力や最近の宇宙の話題などの、通常の投映では紹介できないもの取り上げ、45 分の枠の中で生解説している。同じ土曜日の投映時間の中で、通常の 10 人程の入場者が 50 名ほどに増えた（釧路市）。

- カップ飲料の自動販売機で火傷の事故が発生したのを契機に、館内で事故対応についての研修会を行った（釧路市）。
- 開館 13 年を過ぎ、パソコンやプロジェクターの故障が多発。修理に必要な基盤等の調達や予算確保に苦慮している（釧路市）。
- 2019 年秋に、北海道プラネタリウム研修会を旭川市科学館サイパルを会場に開催するので、是非とも多くの方々の参加をお願いします（釧路市）。
- 北海道胆振東部地震の震源地に最も近い科学館ではあるが、ビーカー等が数点壊れた程度の被害で済んだが、予定した事業は中止とした。施設的には昭和 45 年施工の建物なので、耐震診断はやっていない（苫小牧市）。
- 落雷でプラネタリウムのパソコンやプロジェクター、イコライザーなどが壊れた。雷サージの対策をしていなかったのが原因。早速、ＵＰＳと主電源の間に対策を施した（北見市）。
- かねてから要望のある、授乳室の設置や年間パスポートの導入について検討している（北見市）。
- 資料整理のために 12 月 1 日から 2 月 28 日まで冬期休館することにしたが、第 2・第 4 の土・日曜日と冬休み期間中の 1 週間については開館する。この冬期間の休館は、今後は毎年行うことになる（滝川市）。
- 北海道胆振東部地震の後は 9 月 8 日から開館したが、周りの状況を見て開館するべきとの意見が寄せられた（余市町）。

②　全国科学館連携協議会からの連絡事項（別紙資料）

- 別紙資料に基づき、全国科学館連携協議会幹事会・総会の報告について、京谷　道科協会長から説明があった。

③　北海道博物館協会からの連絡事項（別紙資料）

- 別紙資料に基づき、北海道博物館協会平成 30 年度第 1 回役員会の報告について、伊藤　道科協副会長から説明があった。

〈協議事項〉

全国科学館連携協議会からの情報提供

- 2019 年度巡回展示物の貸出募集は 11 月 25 日締切です。新しく 3 点の展示物が増えているので、検討して欲しい。
- 海外科学館視察研修の募集は 11 月 20 日が締切です。今まで行ったことのない香港、マカオ、台湾地域の科学館を訪問先としている。連携協の海外視察はアジア、ハワイなど 4～5 日間で行けるところを選んでいる。全科協ではアメリカ、ヨーロッパなど 2 週間の長期で開催し

ており、すみ分けしている。

- 10 月 11・12 日に国内研修会を大阪市立科学館で開催した。研修テーマは「サイエンスショーの開発から実施まで」で 50 名ほどの参加者がある。8 館の事例発表がのほか、サイエンスショーに力を入れている、オーストラリアのウエスタンという科学館の職員による実演があった。サイエンスショーは、それぞれの館で哲学があり、よく考えられ、実践的で使えるものばかりでした。
- 東日本大地震の際に科学未来館の天井が崩落し、3 か月ほど休館することになり、来館者が半減したことがあった。来館者は一時的に落ち込むがじきに回復してきますので、職員のモチベーションを落とさないようにお願いします。

〈その他〉

- 事務局より、別紙資料に基づき、11 月 15・16 日に開催する職員研修会「科学館的ミュージアム・マネジメント(事業点検編)～人と科学をつなげるサイエンスコミュニケーションを目指して～」の参加案内を行う。

〈閉会〉

〈情報交換会〉

各館、連携協事務局ともに和やかな雰囲気で情報の交換が進んでいた。

4　施設見学

10 月 19 日　9：00～12：00

① 男山酒造り資料館

② 旭川市博物館

男山酒造り資料館にて、日本酒ができるまでの工程について、展示資料を基に説明を受けた後、新酒仕込み実演を見学した。

旭川市博物館にて、展示物の配置及び説明方法について説明を受けた。

5　会議風景等の写真

別添のとおり